

島根県芸術文化センター グラントワフ応援団通信

第29号

平成23年5月22日

事務局

0856・31・1860

万寿の津波とグラントワ

島根県芸術文化センター 副センター長 小池 隆 之

三月十一日に東北三陸沖で起こった東日本大震災により多くの方がお亡くなりになったり行方不明となっておられます。また、いまだに不自由な避難生活を長期間続けている被災者の方も多数おられます。グラントワでは館内に皆様からの義援金をお受けするために義援金箱を設置したり、売り上げを義援金に寄付するボランティアの取り組みや東日本大震災災害復旧支援 石見神楽チャリティー公演などで被災地の皆様を応援しているところです。お亡くなりになった方のご冥福をお祈りするとともに、一日も早い被災地の復興を願っています。東日本大震災はまさに「想定外」であり「未曾有」であったわけですが、この益田市そしてグラントワの「大津波」への備えはどのようなになっているのでしょうか。益田駅前からグラントワまで立派な都市計画道路「中島染羽線」が通

っています。この道路をさらに東方面に進んでもらうとやがて益田高校、妙義寺の前を通ってしばらくすると住吉神社の鳥居が見えてきます。グラントワから約一、五kmくらいです。この鳥居をくぐって七尾山の方向へ長い石段を登って行くと中世の城跡の七尾城があり、その中腹に住吉神社があります。この神社まで登ると益田の市街が一望できます。ちよつと木の陰になります。医光寺や萬福寺、三宅御土居跡などが連なる旧益田からグラントワ市役所益田駅はもちろん、遠くは久城中須高津の海岸まで見とおせます。住吉神社からこのように益田市街を眺めていると、グラントワを含めた益田の中心地は意外と海岸から近いということを感じさせてくれます。実際グラントワから益田川の河口までは約四キロ弱としてグラントワの海拔は六、六メートルです。

先ほど住吉神社から眺めた益田市東町にある萬福寺は、もともとは安福寺といつて高津川河口の中須にあった大きな寺院が大津波により消失したものを後年再興したものといわれています。安福寺が消失した大津波は「万寿の地震」(西暦一〇二六年)によりもたらされたものといわれています。

この益田においても約千年前に「万寿の地震」による大きな津波による災害があったことが一九九五年松井孝典氏を団長とする調査団により学術的にも裏付けられています。この学術調査では津波の到達範囲までは明らかにされてはいませんが、言い伝えでは益田川をさかのぼり美都町の久々茂まで到達したということになっており、このことを信じれば益田の市街地はほとんど、そしてグラントワが位置する有明町も被害を被っていることとなります。東日本大震災や万寿の地震のような大津波を起こす大地震の時に私たちはどのように行動すべきでしょうか。益田市地域防災計画(平成二十一年度)には次のように記載されています。震災対策編第二章 災害予防計画・津波災害に対する予防・避難場所、避難路及び誘導標識等の整備ア、避難場所、避難路の指定、整備

イ、避難誘導標識等の整備
ウ、津波防災思想の普及
エ、一般住民に対する内容

参考までに、益田市地域防災計画付属資料(平成二十一年度)によれば、グラントワは吉田地区の避難所開設予定場所の一つに挙げられており、水害、火災及び地震の際の避難所の候補となっています。

グラントワは建築されてからまだ五年あまりで、耐震性に関しては問題がないと考えています。現在、「島根県芸術文化センター危機管理対応マニュアル」により地震災害への対応を定めているところですが、大津波警報が発令された場合の対応は記述されていません。益田市の避難所に指定されていますのでこの際対応マニュアルも見直す必要があるのではないかと思われまます。

東日本大震災や万寿の大津波のような大きな災害は起こって欲しくないのですが、「想定外」や「未曾有」への準備も大事です。ここ益田市は昭和五十八年七月に大水害に遭いました。この未曾有の大災害を良い教訓として、私たちも大災害への備えを怠らないようにしたいものです。

世界へ発信「石見神楽」

「サウジアラビア編」

その①

企画広報課 木原義博

島根県石見地方を代表する伝統芸能と言えば「石見神楽」と石見人ならば誰もが答えると予想される、その「石見神楽」がこの度、サウジアラビアで公演を行いました。今回の公演はアブドーラ国王が長官を務める国家警備隊が主催する「ジャナドリア祭」という日本の国民文化祭のような祭りで、十七日間に渡る長期間の祭りに日本がゲスト国として招かれ、チームジャパンの一員として石見神楽が選ばれたという大変名誉あるものでした。ジャナドリア祭の会場は砂漠の中に、年に一度、この祭りをを行うためだけに広大な敷地にパビリオンがいくつも作られたものです。

十七日間ずっと同メンバーで行うことは困難であること、そして、石見神楽と一言でいっても地域によってその芸風が異なることから、今回は益田チームと浜田チームで前半と後半を担当しました。

四月十日に益田を出発し、関西空港から空路十時間三十分かけてドバイ

に入り、そこで半日休憩し、リヤドに向かいました。時差六時間。この時差が帰国後に私達を苦しめることになるとは思ってもみませんでした。

サウジは砂漠と暑い国というイメージでしたが、世界的な環境問題の影響でしょうか？

（「あい地球」を担当した私にとつては憂慮すべき問題でした・・・）寒い寒い。雨は降らないと聞いていたのにスコールは降るわけで、お陰様でサウジ風邪を引いてしまいました。

また、お金持ちの国ですので、外貨を獲得しなくても十分に国を営んでいけるので、食事にも苦労しました。世界的に日本食ブームのはずなのに、サウジには全くありません。スーパーマーケットに行つて口に合う食材を買い込んで自炊生活です。ちなみにハイオクガソリンが一リットル三十円、五〇〇CCのミネラルウォーターが五〇円。ガソリンより水が高い国なのです。また、宗教上の問題でしょうか？お酒は一切呑みません。豚肉もだめです。醤油にはアルコール成分が入っているの持込禁止。（しかし、スーパーにはキッコーマンの醤油が売ってありましたか？）

文字数の関係で公演には触れることが出来ませんでしたので、次号で紹

介させていただくとして、今回「石見神楽」が選ばれた理由を総合演出の方が発表され、その言葉に感銘をうけましたのでご紹介させていただきます。

「日本の伝統芸能は数多くありますが、伝承している皆さんが義務として行っている伝統芸能は、どんどん廃れてしまっている。その中において石見神楽は伝承している皆さん自身が楽しんでる。その結果、益々繁栄している。」

参加された若いメンバーの方も「有難い言葉をいただいた」と感激されていました。（次号へ続く・・・）

「舞う 踊る 仲間たち」初企画

イベントグループ

豊田 まさこ

少しずつ初夏の空気が感じられる頃となりました。

三月十九日に行われました、グラントワボランティア会プロデュース 夢応援プロジェクト「舞う 踊る 林祐作と仲間たち」の公演に於いて、ボランティア会のみなさまのご協力に

より、沢山のお客様にご来場いただきました。当日お手伝いいただいた方、公演の宣伝を他町村・他機関にしていた方、当日裏方スタッフとして手伝っていた方等々、みなさまに支えられ 大盛況にて終わることができました事を本当に感謝いたしております。

林祐作君は、三月二十一日に上京し、劇団に入団いたしました。四月から、明治座一ヶ月公演、五月十二日より全国ツアー等 裏方としてがんばっています。グラントワの舞台に出演させていただいたことが、大変役に立っているとのことでした。まだまだ役者の卵として日々指導されているみたいですね。林祐作本人からボランティア会のみなさまによるしくお伝え下さいとのことでしたので、この場をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

また、これからイベント部会は、グラントワを愛してくださいませお客様様の為にも喜んでいただける企画をしたいと思っています。ボランティア会のみなさまの絶大なご支援、ご協力をよろしくお願い致します。地域のみなさまに愛されるグラントワの為に、ボランティア会一丸となつてがんばっていききたいと思っております。

益田糸あやつり人形 東京上演!

情報発信ボランティア

三浦 圭子

二月十六日(水) 県指定の無形文化財で、明治期から続く益田糸あやつり人形を今に伝える益田市の益田糸あやつり人形保持者会が、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターで開かれた「全国公立文化施設アートマネージメント研修会」にて上演をしました。公立の文化施設の関係者が、地域の伝統文化をどのように振興・発展させるかを話し合うもので、文化庁などが毎年開いているものがあります。伝統芸能を積極的に支援している県芸術文化センター・グラントワ「いわみ芸術劇場」の報告・講演があり、その実演の為に上演をしました。演目は、益田でもよく演じる、生き別れた親子が再会する物語の「傾城阿波の鳴門 巡礼の段」など3演目を披露しました。私も参加させて頂きました。東京での上演ということもあり、どのような感想を抱かれるのかと心配し、大変な緊張感の中での芝居でした。しかし無事に終了し、拍手が聞こえた時には、なんとかやり終えたという安堵感とその苦しさを消し去りました。終了後、研修会に参加された方々は、益田の糸あやつり人形に興味を持たれ、実際に人形を操られたり、写真を撮られたり、また質問をされたりもしました。私にとって、とてもよい経験をさせて頂けたと感謝しています。

益田糸あやつり人形が伝わったのは、明治二十年くらいと言われています。人形も古く大変貴重なものです。

東京の結城座や竹田座に現存する改良されたものとは異なっており、古い形態をとどめたまま上演されるのは、わが国で現在上演されている糸あやつり人形の中で、唯一無二のものと言われています。

昨年からは、文化庁の支援事業の一環として、人材育成特別プログラムが組まれ、人形操作、義太夫・三味線、人形製作、衣装製作、結髪講習が行われています。東京から一流のプロの先生に来て頂き、教わっています。中にはボランティアの方も参加されています。保持者会のメンバーは、先生からの教えを熱心に学び、日々研鑽している所です。一時は衰退しかけた益田糸あやつり人形ですが、今では20歳代の若者も入り、活気づいてきています。私たちは、仕事を持ちながら週1回の稽古をしています。プロのようにには出来ませんが、少しでもお客様に、人形が人間であるかのように動き、気持ち伝わるような芝居をしたいと頑張っています。年に4回定期公演を行いますので、公演の際には是非足をお運び、その成果をご覧頂けたら嬉しく思います。楽しんで見て頂けたらと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。



スウィング・ロンドン展

島根県立石見美術館

主任学芸員 河野克彦

「スウィング・ロンドン 50's 60's」は、当美術館で今年の夏に開催する展覧会です。ビートルズやミニスカートのツイッギーが登場し、若者文化の発信地になったロンドンには、当時「スウィング・ロンドン」と呼ばれたのです。この展覧会は、普通の美術の展覧会とはひと味違い、ギターや衣装等も展示します。当館で所蔵するドレスも展示しますし、ロックバンド「レッドツェッペリン」のギターリスト、ジミー・ペイジ本人からお借りしたギターやステージ衣装は、大変貴重です。

一九五〇年代、六〇年代のイギリスの若者文化がテーマの本展では、その他に、車やバイク、家具、食器、家電製品など、当時の日常生活に使われたものを紹介します。イギリスは戦勝国でしたが、第二次世界大戦は大きな痛手で、こうした工業製品によって一足先に豊かな消費文化を築いていたアメリカの生活に、若者は憧れていたのです。

展示する作品は、ほとんどがイギリスから来ますが、それらが作られた国はさまざまです。例えば、スクーターのベスパはイタリアですし、ブラウンの電気カミソリはドイツのもの、北欧の家具もあります。そして日本の製品もいくつか登場します。ソニーのトランジスタラジオ、ホンダのバイクが代表的なものでしょうか。戦争に負けた日本が、わずかな期間で復興を遂げ、当時すでに優れた製品を輸出できる

ようになっていたのです。私はまだ生まれていない頃から日本の製品が海外で高く評価されていたのを、作品によって目の当たりにすると、感慨深いものがあります。

それから、今回の展覧会は、福島県の郡山市立美術館が中心になって企画し、全国巡回している展覧会です。三月の震災によって現在休館している郡山市美の担当の方から、科学技術に対して大きな信頼があったこの時代に、あの福島第一原発が計画、建設され始めたという事実を聞ききました。東北地方の一日でも早い復興を願いながら、ひとつの転換期だったこの時代から、わたしたちの社会のありかたをあらためて見直すべきなのかも知れないと思います。

一度のぞいてみませんか?

映画ボランティア 八木雄治

益田地域だけでなく、近隣地域または他県の方々にもご好評頂いているグラントワシアター。

毎回、上映される映画をとっても楽しみにされている方もたくさんいらっしゃると聞いています。そんなグラントワシアターの運営の一部をお手伝いさせて頂いているのが、映画ボランティアグループです。主な活動は、上映する映画の選定。ポスター、チラシ等の作成や配布、上映当日会場でのチケットもぎりなどです。第一・第三火曜日の午後七時からグラントワ内の会議室で和やかな雰囲気で行っています。例えて言えば、映画好きな人が集まった高校の部活動のような感じ、とてもいいでしょう。ですから気楽な気持ちで一度グループ活動をのぞいて見て下さい。そこに新たな発見があるかもしれませんよ。グループのみんなが心よりあなたの参加を待っています。

雪舟さんが屏風に 画を描く

室町文化フェスティバル開催

五月四日と五日、室町文化を現代に
よみがえるイベントが今年も盛大に
開催され、多くの来館者で賑わいまし
た。今回のテーマは「舞い・装い・益
田の中世文化の創造」です。

まずはオープニングの構成吟「雪舟
慕情」（公道流島根県吟詠連盟の皆さ
ん）中庭の舞台上に雪舟さんに関する漢
詩が書かれた大きな六曲（枚）の屏風
が用意されました。

木村 晩翠 作「雪舟像」

濱村 一城 作「四季花鳥図屏風」

濱村 一城 作「大喜庵」

尺八と琴の伴奏で漢詩の朗読、吟詠、
剣舞、詩舞が演じられました。

庄巻はこの中ほどで漢詩の作者で
もある濱村一誠さん扮する「雪舟さ
ん」が登場して、屏風に水墨画を描い
たことです。「雪の中 白鷺わたる
葦の舟」の俳句の内容を一枚の屏風に
すらすらと描きあげました。拍手喝采
でした。ここで、漢詩「四季花鳥図屏
風」の解釈を掲載します。

「画聖雪舟はここ大喜庵を終焉の地
として、代表作四季花鳥図屏風等の歴

然たる業績を残しました。雪景色の中
を飛来する白鷺は雪舟自らの姿であ
りましょうか。硯の水をためる部分に
舟を浮かべて、水墨の世界を旅して明
国は洞庭湖にまで遊びました。」

室町文化フェスタのイベントの中
から一部を紹介します。

益田家文書を基に再現した「中世の
食」（展示、試食）、室町文化をイメー
ジした「華道展」「お茶席」など。「子
ども奴」、「子ども神楽」、「子ども囲碁
大会」、「雪舟さん音頭」など。「室町
文化フェスタふれあいかたるた体験」も
開かれました。

グラントワ・シアターは子どものた
めの「映画ドラえもん」。沢山の入場
者がありました。

美術館では「ちひろ美術館コレクシ
ョン 世界の絵本をめぐる旅」が人気
でした。五日にはお馴染みの「産土（う
ぶすな）の舞」が披露されました。今
福優さんの「和太鼓演奏」も定番とな
りました。盆栽店もありました。いろ
いろのお店が出版され、賑わいました。
雪舟ゆかりの益田、室町時代のロマン
ある町をいつまでも誇りに持ち続け
てゆきたいものです。

（情報発信ボランティア 飯塚哲也）



あ と が き

グラントワの正面入り口から駐車
場に向かう途中、東側外壁の植樹にハ
ナミズキが三株あるのをご存じでし
ょうか。この春も薄紅色の綺麗な花が
石州瓦の壁面を背景にとても鮮やか
に咲いていました。でも普通、私たち
に花卉と見えるのは、実は総苞片（そ
うほうへん）という葉にあたる部分で、
花は中心部に小さく目立たず集まっ
ています。益田市内でも最近ではハナミ
ズキがあらこちらで見られますが、
次の機会に観察してみるのもいいで
すね。ハナミズキといえば七月の初の
グラントワ公演が待たれる一青窈の
代表曲です。祈りにも似た詞と美しい
音階の素敵な歌ですね。彼女は自身で
作詞をしますが、美術館で展覧会を巡
るときに、よく詞が浮かぶそうです。
リハーサルの合間に石見美術館を散
策し、新しい詞が生まれたなんてこと
も・・・。同じ七月も夏休みに入りま
すと、グラントワ初の平原綾香コンサ
ートがあります。「マイ・クラシック
ス」の三枚のアルバムは、クラシック
の名曲のメロディーに詞をつけて想
いを託す曲の数々です。フィギュアス
ケートやテレビコマーシャルなどで
聴き覚えのある歌がたくさん聴けま
すね。

この夏のグラントワも様々な彩ら
れます。一青窈、平原綾香の二人は老
若男女、ファン層の広いことでも共通
しています。是非楽しんでみて下さい。

（陽翳）